

障害者支援施設 鹿野かちみ園

1 基本方針

利用者の人権を尊重しながら、一人ひとりが生きがいや役割をもって楽しく穏やかに生活できるよう日々支援するとともに、その人に相応しい自立への支援を行う。

また、地域に根ざした信頼される施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和6年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡				
					地域移行		家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)			
				GH	アパート等								
生活介護	60	73	1	9	0	0	0	3	2	4	15,012	93.0%	65
施設入所支援	60	62	1	9	0	0	0	3	2	4	19,706	90.0%	54
5 年度	生活介護	60	77	2	6	0	0	0	2	2	16,636	103.0%	73
	施設入所支援	60	63	4	5	0	0	0	2	1	21,216	96.6%	62

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	7	17	9	35
女性	0	0	0	0	6	10	14	30
計	0	0	0	2	13	27	23	65

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	6	13	9	30
女性	0	0	0	0	1	9	14	24
計	0	0	0	2	7	22	23	54

3 事業の実施状況

（1）要介助高齢知的障がい者支援

高齢化による疾病（生活習慣病等）、身体機能低下（ADL低下）、脳の機能低下（認知・思考、気力等の低下）が顕著であるため、各種取組みを行った。

ア 健康管理

- ・嘱託医及び他の医療機関と緊密な連携を図り、異常の早期発見・早期治療に努めた。
また、月2回の精神科医の往診で、症状の不安定な方への早期対応がスムーズに行うことができた。
- ・感染症予防については、定期及びそのつど感染症対策委員会を開催し、水際対策、感染拡大の防止、流行状況の情報共有等に努めた。新型コロナウイルスのクラスターは6月に1回生じたのみであった。
- ・6年度の入院は28名あったが、高齢化に伴う持病の悪化による入院が目立った。
- ・退所については、8名が要介護状態になっての施設移管または病院への長期入院による利用契約解除となった。
高齢・重度化が顕著なため、今後も不調の早期発見・早期対応に努めていく。
- ・日常生活の食事・入浴場面に潜むリスクを減らすため、新任職員にはKYT研修を2回、全職員には1回KYT研修（グループワークを含む）を実施した。
また、実際に発生した事故を再現し、再検証を行うことでリスク軽減に努めた。

イ 高齢知的障がい者対応（口腔ケアの実施）

- ・月1回、歯科医師と歯科衛生士により、利用者のブラッシング等口腔ケアの方法等について、指導を受け、口腔ケアに対する意識が高まり、支援の定着に繋がった。
しかし、障がい特性や長年の習慣から口腔ケアはまだ十分とはいえない。
- ・次年度からは外部の言語聴覚士の派遣について検討し、オーラルフレイル予防に努めていきたい。

ウ ADLの活動性を高める支援

- ・摂食嚥下障害の研修を行い、食事介助の留意点や食器の工夫、トロミの付け方を学んだ。
また救急救命講習にて喉詰り時の応急対応の確認も行った。
- ・今後も医師、管理栄養士、作業療法士、看護師、支援員と連携し、個々の利用者の評価及び食の在り方（食形態、食事環境、食事の姿勢など）を随時見直し、喉詰りや誤嚥性肺炎の防止に努めたい。
- ・作業療法士により、個々の訓練プログラムの検討、実施による心身機能の維持、向上を図ることや機能訓練と環境調整・整備により転倒・転落リスクの軽減を図ることに努めた。
また、日頃から多職種との情報共有を積極的に行った。

(2) 利用者支援の質の向上

- ア 行動障がいがある方等を対象として、2カ月に1度、外部専門家をアドバイザーとして招聘し、ケース検討会を実施した。
- イ 精神障がいがある方を対象として、月に1度、外部の公認心理師を招聘し、面談を行うことで利用者の精神状態の安定を図ると同時に、利用者との関わり方、障がい特性の理解を深め、日々の支援に対する助言をもらった。
- ウ 職員の自己サービス評価を実施して目標を明確化した。
また、第三者評価を受審し、現状の課題を明確にすることが出来た。

(3) 日中活動の充実と潤いのある生活の提供

- ア 各丁目の障がい特性や年齢に応じたゆとりある活動を実施した。（音楽療法・簡易作業・アート活動等）
- イ 余暇の充実のため、利用者からの希望を聞き取り、毎月自治会で季節に応じたイベントを開催し、各丁目で紙芝居や手遊び、アロマセラピーなどを実施した。
また、たい焼きやたこ焼きの屋台業者にも来てもらい、利用者にはとても好評であった。
・今後の課題として、言葉でのコミュニケーションが図れない方への意思を汲み取る工夫（好きな活動や余暇を模索）や日々の生活の中で好きなこと・苦手なことなど意思の推定を図っているが、難渋しているケースもあるため、今後も継続して努力して行きたい。
- ウ 地域の行事（各種祭り、運動会等）や各種交流会など地域や他団体との交流は、感染症の流行情報を収集しながら、参加することができた。
- エ 生きがいづくりとして、地元企業の下請け作業に取り組み、工賃を得ることで達成感や充実感に繋がった。
・また、アート活動にも取り組んで、書道教室や日中活動の中で作られた作品をあいサポートアートとっとり展に出展したり、鹿野かちみ園わびすけ展として個展を開催（ART CUBEキューール鹿野及び鹿野かちみ園ホール）し、沢山の方に作品を観ていただいた。

(4) 「社会参加の機会の確保」・「地域社会における共生」・「福祉人材教育」の推進

- ア 地域行事は感染症の流行情報を収集しながら参加し、交流を図ることができた。
- イ 福祉のまちづくり、町おこしなど、地域貢献に努める機会として、自治会を中心に運動を兼ねて地域へ出かけ、環境美化など貢献する機会を積極的につくった。
- ウ 鳥取短期大学及び鳥取福祉専門学校の実習を2名受け入れた。
実習生を受け入れることで人材育成はもとより、外部の視点からフィードバックしてもらうことで、教える職員にとっても学びの機会となり、透明性の高い施設運営に繋がった。

(5) 権利擁護・虐待防止の取り組み

- ア 虐待防止チェックリストを年2回実施し、丁目会議や虐待防止委員会で確認し、日々の支援の振り返り及び検証を行った。
園内虐待防止研修では障がい者に対する法制度の確認、他県の虐待認定された事案に関する研修、身体拘束適正化の考え方に関する研修を行った。
6年度の当法人虐待チェックシート集計結果をもとに当園と重なる内容や具体的な状況の確認を行い適切な支援とは何かを振り返る機会とした。

イ 常々自治会やヒヤリハット報告、毎月のリスクマネジメント委員会で虐待の有無を確認していたが、7月に身体的虐待事案が1件発生した。

その事案を受けて、改善策に沿い、エルダー制の導入、定期的な個別面談及び研修、業務内容の見直しを行った。

ウ 園外研修として「障がい者虐待防止研修」、「高齢知的障がい者における意思決定支援」、「成年後見制度における意思決定支援」など、虐待防止・権利擁護研修に積極的に参加した。

また、知識不足、支援技術の未熟さから虐待の対象になりやすいとされる強度行動障がいを学ぶ機会として、強度行動障害支援者養成研修を積極的に受講し、障がい特性の理解、環境調整、適切な支援方法について多くの職員が受講することができた。

(6) 経営改善・基盤の確率

・今年度の稼働率は、以下のとおりであった。

実績稼働率：生活介護 93.0%、施設入所 90.0%、短期入所 17.4%

・常に入所希望者の名簿整理を行い、医療機関・相談支援事業者と連携を密に取り、退所者が出たときに迅速に対応できるように努めた。

また、速やかに入所選考委員会を開催し、欠員の期間が長期に渡らないよう入所の確保に努めた。

・施設利用希望者の見学を積極的に受け入れた。

・障害支援区分は生活介護平均 5.1、施設入所平均 5.2 となっている。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	8月	1人	5人
鳥取社会福祉専門学校	11月	1人	5人
計		2人	10人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市鹿野町赤十字奉仕団

[延べ 56 人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	9	126	13	347
日中一時支援事業	0	0	0	0